

# 平成29年度の決

## 平成29年度の事業概要は次のとおりです

### ① 給水状況

給水人口	78,644人	前年度比	2,305人 (3.02%) の増
給水戸数	33,906戸	前年度比	1,462戸 (4.51%) の増
総配水量	9,804,138m <sup>3</sup>	前年度比	385,718m <sup>3</sup> (4.10%) の増

平成29年4月から南河原地区簡易水道事業を統合していることから、前年度と比較しそれぞれ増加しています。

### ② 建設改良

向町浄水場の3号ろ過ポンプ改修工事や南河原浄水場の直流電源装置蓄電池更新工事等の水道施設の改修工事及び水道管網の整備拡充や、老朽管の更新を実施し、より安全で安定した水道水の供給や、施設の改修に努めました。

新たに埋設した水道管は約4.9kmで、統合した南河原地区簡易水道事業の水道管約44.7kmを加え、総延長は約550kmとなりました。

## 〈平成29年度事業運営状況〉

市では平成29年度に、長期的な視点から50年先100年先を見据えて、これまでに経験したことのない厳しい社会情勢に対応し、水道事業を未来に繋げるため、水道事業の基本方針を示すことを目的に、「行田市水道事業ビジョン」を策定しました。

今後も、「行田市水道事業ビジョン」に基づき収入の確保や経費の削減に努め、健全な事業経営を推進します。なお、平成29年度の事業運営状況については、以下のとおりです。

### 経営指標の状況

指標名	内容	分析	平成29年度
有収率	総有収水量／総配水量×100	水道システムの効率性	90.4%
総収益対総費用比率	総収入／総支出×100	収益性	110.1%
給水収益対職員給与費	職員給与費／給水収益×100	費用	5.6%
職員1人当たり有収水量	総有収水量／職員数	生産性	682,117m <sup>3</sup> /人

**有収率** …年間総配水量に対する総有収水量の割合。この数値が低い場合は、漏水、メータ不感水量、管洗浄及び事業用水量等が多いことが考えられます。

**総収益対総費用比率** …総収益と総費用を対比したもので、100%が赤字・黒字の分岐点になります。率が高いほど経営状態がよいと言えます。

**給水収益対職員給与費** …給水収益に対する職員給与費の割合。職員数や人件費の水準をみる指標です。事業の生産性、効率性を表すものです。

**職員1人当たり有収水量** …職員の労働生産性をみる指標で、職員数が適正な規模になっているかを示すものです。